



廿日市市教委だより

～ 子どもたちの笑顔を守るのはわたしたち ～

令和4年
7月28日
第4号



夏といえば、海、プール、キャンプ、すいか、かき氷、アイス、お祭り、盆踊り、花火、せみ、朝顔、甲子園、帰省などなど、たくさんの楽しみが連想されるのではないのでしょうか。

暑い日が続きますが、たくさん夏を楽しんで、リフレッシュするとともに、1学期を振り返り、2学期に向けて準備をする充実した夏にしましょう！



子ども司書養成講座

令和4年7月2日（土）に山崎本社みんなのあいプラザで、「子ども司書」養成講座（全体研修）を開催しました。「子ども司書」とは、読書活動を推進するためのリーダーとなる児童のことです。

市内の小学校より6年生11名の児童が参加し、本について新しい学びを得ようと、真剣に研修を受講しました！



「日本十進分類法」を学ぼう！

普段、図書室で見ているラベルのしくみを知ると本は探しやすいね！

「おすすめの本」のポップを作ろう！

みんなの目に留まるポップとは、どんなポップかな！



今後、8月には「はつかいち市民図書館」で、図書の貸出や返却などの実地研修を行い、9月～11月の間は、学校での活動を行っていきます。さまざまな体験を通して、自信をもって読書活動を推進するリーダーとなってほしいと思います！

はつかいち居場所ほっとネットワーク会議

本市では、学校や学級に行きづらい児童生徒への対応として、子ども相談室を設置しています。また、各学校では、心の教室やSSR等の別室を設置し、児童生徒の居場所づくりに努めているところです。しかし、全ての児童生徒の居場所を確保するためには、民間フリースクール等も含め多様な学びの選択肢を提供できる体制づくりを更に進めていく必要があると考えています。

そこで、このたび、「はつかいち居場所ほっとネットワーク会議」を新たに開催し、民間フリースクールの運営に携わる方々との連携強化等を目的に協議する場を設けました。

【今回の参加者】

民間フリースクール（ウィルサポ学園、木のねっこ、STUDY WALK）、市費スクールカウンセラー、子ども相談室、廿日市市教育委員会担当者

【協議した内容】

- ① 不登校児童生徒への支援の在り方について
- ② 学校及び関係機関との連携・協力体制の構築について
 - ①については、ニーズに応じた多様な学習等支援の提供やその周知を、官民が一体となって図っていくことや、義務教育以降、高校以外の学習・就労支援の受け皿の創出等について意見交流しました。
 - ②については、フリースクール等を利用している児童生徒が在籍している学校との連携を図る上での困難さや課題について意見交流しました。連携が不十分であることにより、児童生徒が在籍校への所属感や帰属意識が失われつつある事例もあり、早急に改善を図るべき課題についても参加者で共有しました。

この会議は今後も定期的に行ってまいります。内容については、市教委だよりや研修等にて随時お知らせしますので、今後の各校の不登校対策の参考としてください。



6月22日（水） オンライン
（Zoom）により実施しました。

キャリア教育の充実に向けて

7月20日（水）野坂中学校第3学年において、進路学習の一環として実施された出前授業について紹介します。

講師は、舞台俳優の佐藤正和さん（福岡県大牟田市出身劇団ゴツプロ所属）と中園菜々子さん（廿日市市出身阿品台中学校卒業生）。

佐藤さんは、「一生懸命働いている人達を楽しませたい」という仕事に対する信念や、ドラマや映画とは違いやり直しがきかない舞台の難しさ、一方で「同じものが2度とないという面白さ」や「その時間、その場所に行かないと感じ取れない楽しさ、感動」等、舞台俳優という仕事の魅力を語ってくれました。

中園さんは、『好きは強い』をテーマに、高校受験の失敗、一生懸命になる時間を大切にすること、夢・目標・意志を公言することの大切さ、「役者になりたい」という夢を持ち続け努力を続けたこと、人との出会いやつながりへの感謝等を語ってくれました。

生徒代表として森田満帆さんは、「夢を持つことが自分を動かす大きな力になる。受験に向けて不安、心配、壁もあるが、好きなことを探して、それに向かって一生懸命頑張っていきたい。」と、お礼の言葉を伝えました。



【公演情報】

講師お2人の舞台「父と暮らせば」
広島公演 9月7日（水）18：30
アステールプラザ・多目的ホール

「学びの革新」の更なる推進

先月号からの続きです。「主体的な学び（学習者基点の能動的な深い学び）」を実現させましょう！

そのために、「情報収集・整理」「対話」に加えて、次の2つを意識的に取り入れていきましょう。

発表



いろいろな児童生徒が、自分に合った方法で発表できることは大切！

電子黒板やタブレット端末など視覚化できる方法を児童生徒に選択させましょう。

振り返り



1時間ごとの学びがつながるようにすることが大切！

感想で終わっていると、次の学びにはつながりません。

児童生徒が学習課題に対して、自分の意見をもつことができる工夫、他者と意見を交流することで自分の考えを深めていくための工夫など、授業改善を進めていきます。

アテンション ぶい~ず !!



平良小学校 音楽専科
クオン・ジェーバオ先生

言語：広東語・中国語・日本語・英語

好きなこと：音楽（サックス・作曲）

海（スキューバダイビング）

経歴：大学で日本語と音楽を学び、日本の定時制高校、中国の日本人学校で音楽の教師をした後、平良小学校へ



今回は、今年度より平良小学校で音楽専科として勤務しておられるシンガポール出身のクオン・ジェーバオ先生に、お話を伺いました。経験豊富で、国際的な感覚を持つ先生に注目です！



Q どうして日本で教員をしようと思ったのですか？

日本の学校の吹奏楽がとても素晴らしかったので、どうしても、あんなに上手な演奏ができるのか知りたいと思い、日本で教員を目指しました。

Q 日本の小学校と他の国の小学校の違いはありますか？

平良小学校の子どもたちは、素直で元気だと思います。

他の多くの国の小学校では、日本のように鉛筆の持ち方や座り方、整理整頓の仕方など細かい指導はしません。学習についても、日本の学校は教えることがきちんと決まっています、一つ一つ丁寧に教えるところが大きな違いです。

Q これから平良小学校で取り組んでいきたいことは、ありますか？

子どもたちが、音楽を通して世界とつながっていけるようにしていきたいです。例えば、世界の文化や社会的なことなどに興味をもてるよう意識して授業をしていきたいです。また、現在もタブレットを活用した授業を行っていますが、今後もICTをもっと活用していきたいです。

クオン・ジェーバオ先生の、国際的な感覚が児童にとってもよい影響を与えていると実感しました。今後も音楽を通して様々なことへチャレンジして、平良小学校の児童の世界観を広げて下さることを期待しています！